

滋賀県データ連携基盤共同利用 ビジョンの取組状況について

滋賀県総合企画部
DX推進課地域DX連携推進室

「滋賀県データ連携基盤共同利用ビジョン」策定の背景

データ利活用に係る国の方針

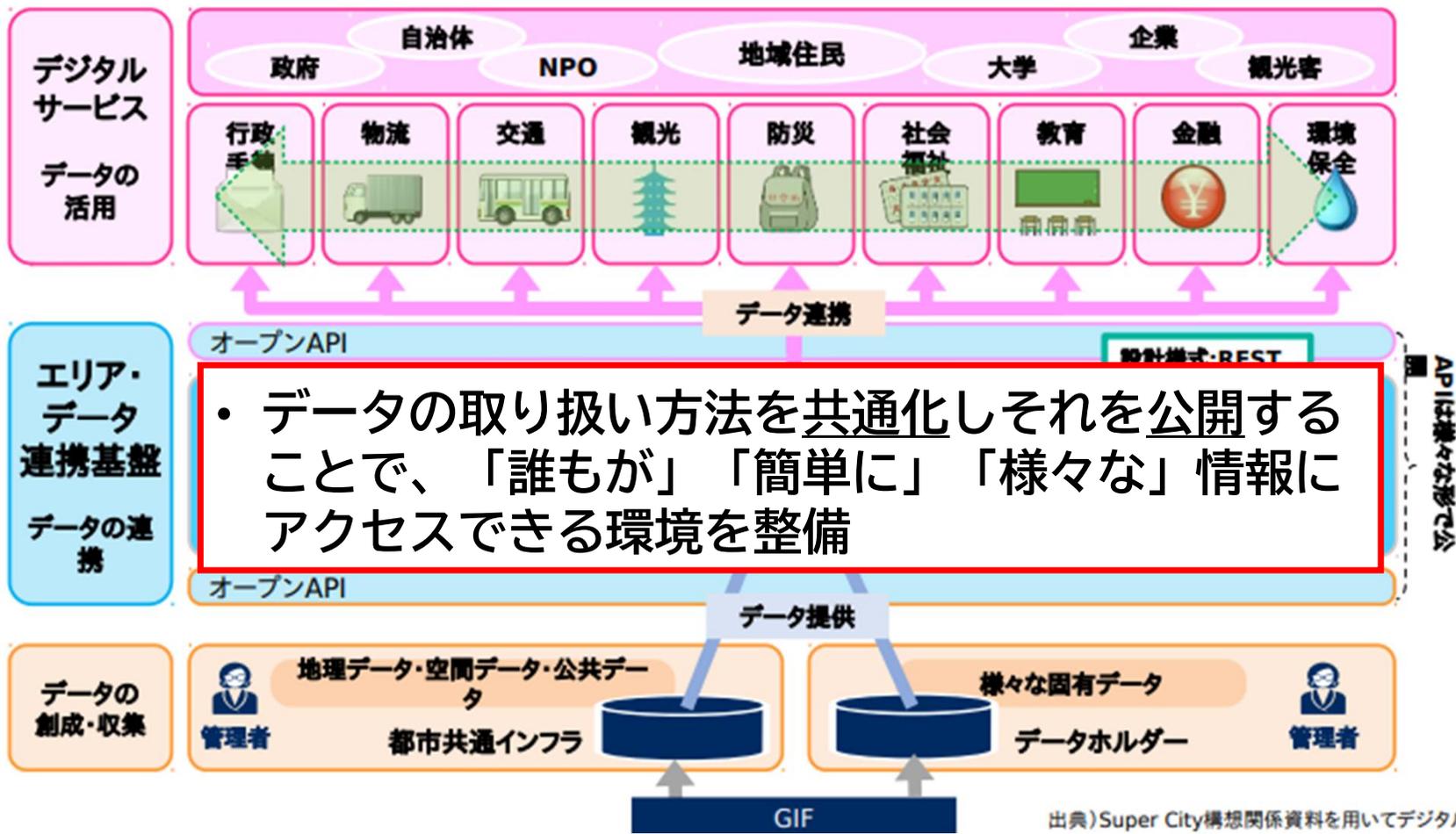
官民データ活用の推進は、地域経済の活性化及び地域における就業の機会の創出を通じた自立的で個性豊かな地域社会の形成並びに新たな事業の創出並びに産業の健全な発展及び国際競争力の強化を図ることにより、**活力ある日本社会の実現に寄与すること**を旨として、行われなければならない。（官民データ活用推進基本法（平成二十八年法律第百三号）第3条第2項）

生成AIの登場

「総人口の減少と、それを上回るスピードで生産年齢人口の減少に直面する我が国においては、限られた人材で社会や経済の活力を維持し、持続可能な成長を実現していくためには、**データの利活用と、それにより可能となるAIの社会実装こそが、豊かで安心できる社会を支える基盤となる**」（令和7年6月13日 デジタル行財政改革会議決定「データ利活用制度の存り方に関する基本方針」）

エリアデータ連携基盤

「暮らしを支える様々なサービスの中で、必要なデータの連携・共有を進めることにより、更に個人のニーズに最適化されたサービスの提供を実現するもの」(デジタル庁)



出典) Super City構想関係資料を用いてデジタル



【データ連携を支える基盤の整備】

(滋賀県データ連携基盤共同利用ビジョン)

1. データ連携基盤とは

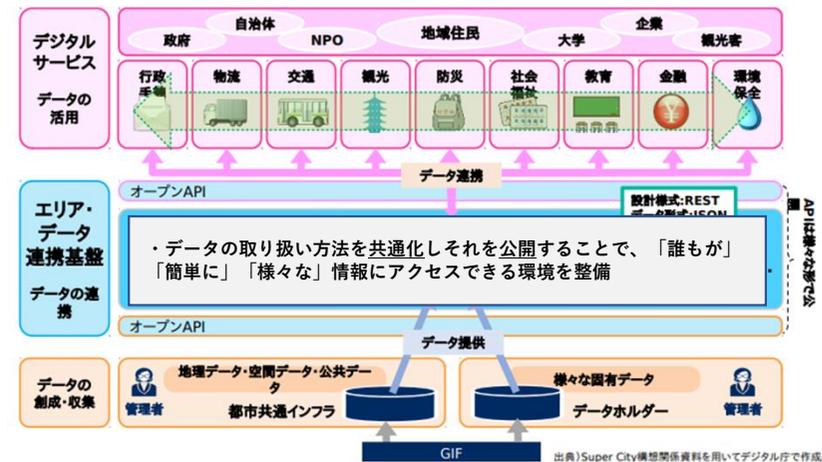
- 「暮らしを支える様々なサービスの間で、必要なデータの連携・共有を進めることにより、更に個人のニーズに最適化されたサービスの提供を実現するもの」(デジタル庁)

2. めざすべき姿

- データ連携基盤を整備・運用し、組織間でのデータ連携や共有を進めることにより、県民一人ひとりのニーズに合ったきめ細やかなサービスを提供し、県民の暮らしをより健康で豊かにし、地域社会の持続的発展を目指す。

(参考) データ連携基盤共同利用の基本的な考え方 (デジタル庁)

- データ連携基盤の導入にあたっては、同じようなデータ連携機能に対し重複投資を避けるとともに、特定のサービスや事業者にとらわれないオープンな仕様を担保することが、基盤を活用したサービスの設計の自由度とより個人に最適化されたサービスの実現を図る上で不可欠。
- 基本的には都道府県単位に共同利用の検討を進めるが、この考え方は、都道府県下を超えて適用できるものであり、必要に応じて、都道府県を超えた取組が行われることはむしろ好ましい。



他府県の事例：

福島県：県、市町村が持っているデータを連携基盤で管理し、防災、イベント、交通情報等、県内の情報を一括して確認できる「ふくしまポータル」を運用



【データ連携を支える基盤の整備】

(滋賀県データ連携基盤共同利用ビジョン)

3. 本県のデータ連携基盤の現況

- 県内ではデータ連携基盤の導入実績がなく、導入予定の自治体もない。
- 市町や関係団体と産学官が連携したデータ利活用の調査・研究を行っている。

4. 基本的な方向性

- 近隣府県で整備されているデータ連携基盤を共同利用する方向で検討を進める。
- データ連携のメリットを県内市町と共有し、市町や関係団体とのヒアリングを重ねながら具体的なユースケースの検討を進める。
- 令和9年度データ連携基盤の共用開始に向け、データ連携が可能な分野からスモールスタートを切り、順次利用拡大を図る。

5. 考慮事項

- パーソナルデータについては個人情報取り扱いの整理等に時日を要するため、当面、非パーソナルデータの連携について検討を進める。
- 今後、国としての統一的な方針等が示された場合、追加の調整が必要となる。
- 本ビジョンは今後の状況変化に合わせて柔軟に見直す。
- 連携整備にあたっては、デジタル庁が示す基本的な考え方に則る。
 - (1)分野別にデータ連携基盤は、原則、各都道府県で1つに限る。
 - (2)分野間のデータ連携基盤は、各都道府県で1つに限る。
 - (3)これらは、原則デジタル庁が推奨するデータ連携基盤技術から採用する。

カタログ

- カタログ一覧
- データ流通登録
- カタログ作成
- カタログ開示状況
- カタログ開示要求状況
- タグ
- テンプレート
- 管理情報

© NEC Corporation 1994-2026

カタログ一覧

適用中の検索条件:

検索条件をクリア

検索条件 >

表示順: カタログ作成日（新しい→古い） ?

<p>外部連携 NEW</p> <p>公開</p> <p>大阪府保健所花粉情報（2026年）</p> <p>2026年のスギ、ヒノキ科の花粉が飛散する時期に、大阪府茨木保健所、藤井寺保健所、泉佐野</p> <p>公務</p> <p>健康・福祉</p> <p>くらしの情報</p> <p>開示中</p> <p>カタログ作成日：2026/01/30 メタデータ更新日：2026/01/30 データ更新日：2026/01/30</p>	<p>外部連携 NEW</p> <p>公開</p> <p>茨木市町丁字別5歳階級別人口（令和7年11月30日現在）</p> <p>茨木市の人口データです。（2025年12月15日更新）</p> <p>公務</p> <p>人口・世帯</p> <p>開示中</p> <p>カタログ作成日：2026/01/30 メタデータ更新日：2026/01/30 データ更新日：2025/12/15</p>	<p>外部連携 NEW</p> <p>公開</p> <p>茨木市町丁字別5歳階級別人口（令和7年12月31日現在）</p> <p>茨木市の人口データです。（2026年1月21日更新）</p> <p>公務</p> <p>人口・世帯</p> <p>開示中</p> <p>カタログ作成日：2026/01/30 メタデータ更新日：2026/01/30 データ更新日：2026/01/21</p>	<p>ファイル/リンク情報</p> <p>公開</p> <p>【NTT西日本】AI交通量予測サービス事業 報告書</p> <p>2024年度に夢洲で実施したAI交通量予測について、2025年7月から同年10月末までの期間、大</p> <p>運輸・観光</p> <p>開示中</p> <p>カタログ作成日：2026/01/27 メタデータ更新日：2026/01/27 データ更新日：2026/01/27</p>	<p>ファイル/リンク情報</p> <p>公開</p> <p>全国公園データ</p> <p>全国の公園情報を集約したデータです。都道府県、市町村単位で抽出が可能です。日本全国の</p> <p>住宅・土地・建設</p> <p>司法・安全・環境</p> <p>社会保障・衛生</p> <p>健康・福祉</p> <p>開示中</p> <p>カタログ作成日：2026/01/06 メタデータ更新日：2026/01/06 データ更新日：2026/01/06</p>
---	---	--	---	--

令和7年度の取組

- 滋賀県データ連携基盤共同利用ビジョンの実現に向けて、県内で抱える地域課題を把握したうえで、その課題解決に向けたサービスのユースケースを検討し、ロードマップを検討
- エリアデータ連携基盤の可能性を検討するにあたっては、他地域の先行事例も参考とし、当県の実情に応じた連携スキームを検討

基礎調査・現状把握

エリアデータ連携基盤の目指すべき姿、ユースケース検討

最終取りまとめ

県内外動向調査

- ORDENなど広域的なデータ利活用の先行事例調査
- 県の方針や各市町の計画・要望を元に、県民の抱える課題の洗い出し

構想の全体像
方向性の整理

- 「目指すデータ連携基盤の将来像」と「基本方針」整理等

分野ごとのユース
ケース、推進プロセ
スの検討

- 滋賀県において先行的に取り組む5分野の選定
- 分野ごとに庁内ヒアリングを実施し、課題仮説に対するユースケースを検討

市町調査

- 市町が抱える課題等について調査
- 検討したユースケースを元に、市町の該当所属へのアンケート調査の実施

ロードマップの策定

- 各業務で得られた成果の取りまとめ

「限られた人口で幸せに暮らせる社会」に向けてのステップ

STEP1
ダッシュボード・
地図ダッシュボード
など



STEP2
AIを活用した
ユーザーに最適化された
ルート案内など

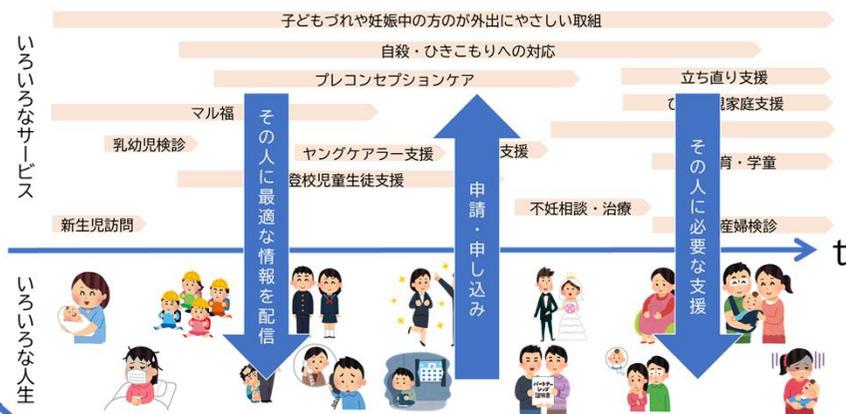
STEP3
AIを活用した
行政手続のリコmendなど

エリアデータ連携基盤
整備・見える化
R8年度ユースケース

AI活用・データ
利活用高度化
R9年度実現

パーソナル分野
令和9年度以降順次
拡大

限られた人口
で幸せに暮ら
せる社会



滋賀県において先行的に取り組む5分野

子育て

- 子育てに関する情報・相談先・サービスが分散しており、必要な情報に確実にたどり着ける子育て環境の整備が必要。
- 支援制度の内容や申請プロセスが複雑で、対象者が支援を受けづらいため、支援が確実に届く仕組みの設計が必要。

地域交通

- 公共交通の利便性が低く、誰もが自由に移動できる交通環境の確保が必要。
- 慢性的な渋滞や交通手段の選択肢不足により、効率的な移動が困難となっているため、一人ひとりが最適な移動をできる環境整備が必要。

根底にある滋賀県らしさ

自然と人の共生

歴史と文化の継承

三方よしの共生精神

健康

- 自身の健康状態に対する将来リスクの把握が難しく、適切な健康管理につながる情報提供とサポート体制の強化が必要。
- 健康づくりの行動を継続しづらく、無理なく生活改善につながる環境・支援の充実が必要。

様々な人々やモノ・情報が
行き交う交流のハブ

防災

- 災害発生時に適切な行動判断が難しく、誰もが迷わず安全に行動できる情報提供と避難支援体制の強化が必要。
- 外出先での被災への不安が大きく、必要な支援を確実に届けられる広域的な情報連携・支援体制の整備が必要。

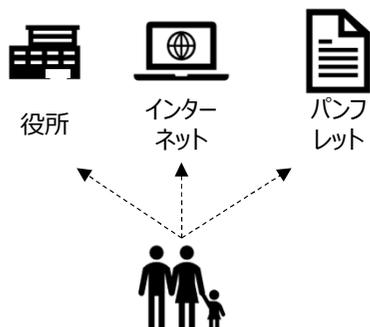
琵琶湖環境

- 琵琶湖の水質・景観悪化が生活に影響を及ぼしており、環境保全の強化が必要。
- 琵琶湖に関するデータが分散し、在来種保全に向けた研究が進みづらいため、データの集約と研究基盤の強化が必要。

県民の抱える課題仮説と生活の変化シナリオ（目指す状態のイメージ） - 子育て

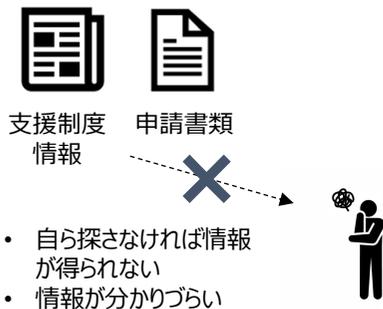
県民の抱える課題仮説

子育て関連情報が散在している



- 子育て関連情報が散在し、探しにくい
- 外出先での施設検索が困難
- 保育園の空き状況確認に手間がかかる

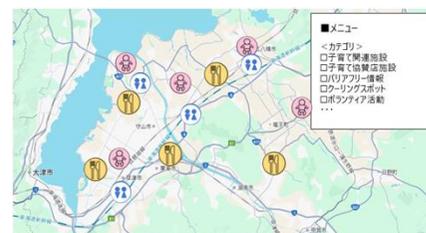
申請・支援情報が分からない



- 支援制度の情報が不明瞭で活用が進まない
- 申請手続きが複雑で手間がかかる

エリアデータ連携基盤活用による効果

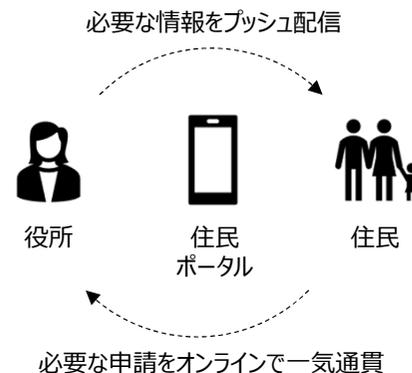
マップ1つで必要な情報が揃う



子育てマップ (イメージ)

- 子育てマップで施設情報を集約し、簡単に検索・発見
- リアルタイム情報で保活を効率化

必要な時に必要な情報が届く



- 住民ポータルで必要な情報がプッシュ配信され、支援制度活用を促進
- オンライン申請で手続きを簡素化

県民の抱える課題仮説と生活の変化シナリオ（目指す状態のイメージ） — 地域交通

県民の抱える課題仮説

地域交通の自由度が低い



駅やバス停が遠い



電車やバスが不便

- 車を使わざるを得ない
- 特に高齢者にとっては移動が制限される



- 地域交通の便が悪く、移動に制約
- 駅・バス停が遠く、車の利用に偏り
- 高齢者の移動手段が限定され、生活に支障

渋滞によって移動の自由が制限されている

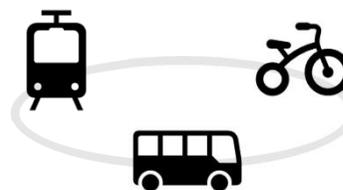


- 慢性的に渋滞が発生
- 路線バスも渋滞に巻き込まれ、時刻表通りに運行できない

- 日常的な車の利用で渋滞に頻繁に遭遇
- 移動の選択肢が少なく、渋滞悪化の要因に

エリアデータ連携基盤活用による効果

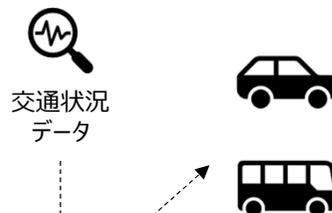
行きたいときに、行きたいところに移動ができる



複数の交通手段をシームレスに繋ぎ、目的地までの移動を最適化

- MaaSで多様な交通手段を一元利用
- オンデマンド交通で地域交通の空白地を解消
- 近畿圏も意識した地域間の交通の連携で移動範囲を拡大

自身に合った外出計画を立て、自由に移動できる



交通状況データ

- どのルートを通るか、どの交通手段を使うか、外出計画を立てやすい

- 交通状況・予測で外出計画が容易に
- 地域交通の利便性向上で選択肢を拡大
- リアルタイム分析で最適なルートを提案

県民の抱える課題仮説と生活の変化シナリオ（目指す状態のイメージ） — 健康

県民の抱える課題仮説

自身の健康状態に対するアプローチがわからない



健康情報



健診結果

- 健康状態が分からず、健康情報への関心が無い
- 健診結果を活かせていない



- 自身の健康状態に対する将来の健康リスクが実感できない
- 健診結果の活かし方が不明瞭
- 行動変容の動機づけが不明

健康づくりのモチベーションが保てない



運動習慣



食事改善

- 自身に合った健康づくりが分からず、続けられない



- 健康づくりのモチベーション維持が困難
- 具体的な食事改善方法が不明

エリアデータ連携基盤活用による効果

早期にリスクを把握し、具体的な対策を行える



健康状態の分析
健康改善アドバイス



早期にリスク検知

- 健康リスクを早期通知
- AI分析で個別健康アドバイスを提供

自然と健康になれる環境の提供



レコメンド配信



近所のイベントへ参加



レコメンド食材の摂取

- 運動習慣化をサポート
- レコメンド機能で無理なく食生活改善
- 生活リズムの改善

県民の抱える課題仮説と生活の変化シナリオ（目指す状態のイメージ）－ 琵琶湖環境

県民の抱える課題仮説

琵琶湖の水環境の悪化が生活にも悪影響を与えている



水質の悪化



景観の悪化

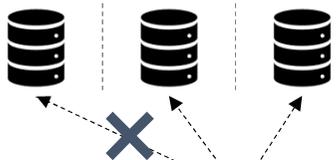
- 琵琶湖周辺の散歩や琵琶湖でのレジャーが楽しめない



- 琵琶湖の異臭やゴミで生活環境に影響
- 景観の悪化や水質への懸念

琵琶湖の在来種が減少課題が複雑化

琵琶湖環境データ



- データが散在し、活用できるデータ・アクセスできる研究者に限られる



- 琵琶湖の在来種が減少し、食文化の継承が困難
- 膨大な琵琶湖環境のデータが散在し、課題の複雑さもあり、課題解決に試行錯誤

エリアデータ連携基盤活用による効果

県全体で琵琶湖の水環境が守られている

琵琶湖ダッシュボード



高度な分析

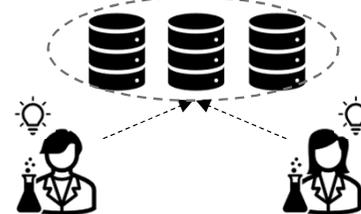


県民の環境意識向上

- データ活用で琵琶湖の水質・景観を改善
- 琵琶湖ダッシュボードで県民の環境意識を向上
- 淀川水系の広域データ連携で水環境保全を推進

多様な主体により研究が進み、琵琶湖の在来種が増加

琵琶湖環境データ



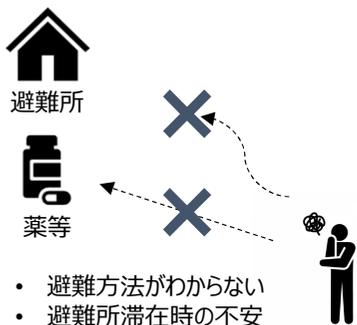
- データが集約され、誰でもアクセスし研究に活用できる

- 誰でも琵琶湖環境のデータを活用でき、多様な主体が研究へ参画
- 研究の進歩により在来種が増加し、県民の手に届きやすくなる

県民の抱える課題仮説と生活の変化シナリオ（目指す状態のイメージ） - 防災

県民の抱える課題仮説

被災時・避難所生活の不安



- 災害発生時に取るべき行動が不明
- 避難所生活への不安

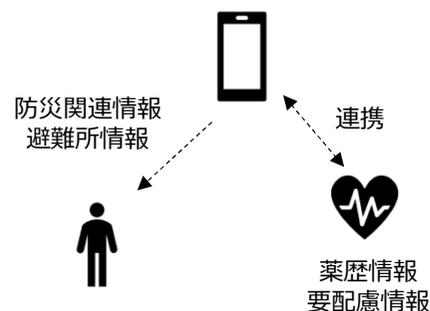
外出先で被災した場合の不安



- 外出先での災害時に取るべき行動が不明
- 避難所へ行けない場合の不安

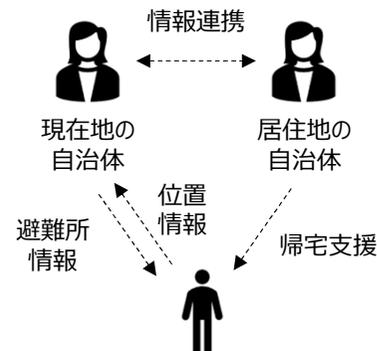
エリアデータ連携基盤活用による効果

災害時も迷わず安全に行動でき、
安心して避難所生活を送れる



- アプリから日常的に防災関連情報を発信
- 災害時に避難情報を発信
- 薬歴情報や要配慮情報の連携による、適切な支援

どこにいても支援を受けられる



- 外出先でも、近隣の避難所を案内
- 安否確認結果や位置情報が自治体へ連携される
- 県外との連携により県外での被災時にも適切な支援を実施

ロードマップ (案)

